

# 新型コロナウイルス感染症による他疾患等への影響調査研究について

## 背景・目的

- 新型コロナウイルス感染症の拡大により、受療行動の変化や手術の延期等の影響が認められている。
- 他疾患等への影響として、治療の遅れによる重症度や死亡率が高くなる可能性が指摘されている。
- 一方で、総死亡数の変化などを踏まえると、新型コロナウイルス感染症による疾病構造の変化や受療行動等の変化による健康影響について、総合的に検討を進める必要がある。

⇒ 新型コロナウイルス感染症による他疾患等への影響について、実態を広く調査する研究班(分担研究班)を立ち上げる。

## 研究の流れ

- ① 新型コロナウイルス感染症の他疾患への影響(重症度や死亡率)の可視化(悪化だけでなく改善も含め)
- ② パンデミックにおける健診及び日常診療継続のための課題の抽出
- ③ 将来的な未知の感染症への対策強化と強靱な医療システムの構築

また、比較検証等のため、海外における新型コロナウイルス感染症流行下における一般医療への影響の調査に関する研究(別の分担研究)も実施し、適宜連携をする。

## 今後のスケジュール

- 研究期間は令和4年3月まで。(ただし、全体としては4, 5年程度必要となることも見込まれることから、令和4年4月からは新たな研究班として進めることも視野に入れて実施。)
- 関連する他の研究班の成果も活用する等の連携が必要。(連携する班の抽出・調整は厚生労働省が行う。)

⇒ 令和3年3月から研究を開始。6月頃、10月頃、年度末を目処に、その時点で得られた知見を厚労省の新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード(現在は週1ペースで開催)等に報告予定。

# 新型コロナウイルス感染症による他疾患等への影響調査の内容について

## 国内のデータの収集・分析及び観察研究の立案(代表:日本医学会連合 門田守人会長)

- 医療提供体制や受診行動に関連した観点毎に、それぞれ評価指標を設定の上データの収集・分析を行い、その実態や健康影響について調査する。
  - ⇒ 7つの分科会をさだめ、各分野に参加する医学会を組織する。
  - ①特別研究班:主要疾患(がん、循環器病、腎不全・人工透析等)の有病率、発症率、致死率、医療費の推移、特定健診受診と発症率、致死率との関連の推移、介護状況の推移など
  - ②社会医学系:自殺者数の推移、緩和ケアに与えた影響など
  - ③基礎医学系:研究論文数(基礎医学・臨床医学)の推移、病理解剖数の推移など
  - ④臨床内科系:認知症や高齢者健康状態動向、うつ発生数、小児ワクチン接種数の変化
  - ⑤臨床外科系:手術症例数の推移、妊娠出産の変化、手術後予後に与える影響など
  - ⑥病院経営系:医療機関収入の推移、看護師離職者数の変化など
  - ⑦融合領域系:臓器提供数の推移、救急搬送の推移など
- 中長期的な影響を見るための観察研究について、具体的な計画を立案し、体制や必要な予算、スケジュールなどを検討する。

## 海外のデータの収集・分析(代表:東京大学 橋爪真弘先生)

- G7、中国・韓国・台湾・シンガポール等の比較的医療レベルの近接した国における新型コロナウイルス感染症の流行下における一般医療の状況について、各種文献の調査を行う。
- COVID-19流行下におけるそれぞれの国の医療提供体制のあり方について統一の質問紙票を作成し、各国行政官・医療関係者を中心にインタビューを実施する。

- 国内と海外の調査結果等は適宜データの比較等を行う。
- 関連する他の研究班とも、成果を活用する等の連携を行う。(主な研究班は別紙のとおり)